

新春雑感

大川創業株式会社
名誉顧問

大川 進一郎

明けましておめでとうございます。

昨年は新聞、テレビで取り上げられない日がない、新型コロナウイルス一色の年だったのに、私の「庚子」年の占いに、一切そのことに触れていない。唯一、「子」は「滋(しげる)、増える、情勢が昨年より一段と重大化する。ねずみ講式に増えるとは言いましたが、コロナに言及していない。2年前、「亥」の年は地震に注意！阪神淡路大震災もずばり当てた。しかし、この新型コロナウイルスのせいで、日本はおろか世界中あれ程ひどい年はなかったのに、読み切れなかったので筆を折ろうと、ひょいと横を見ると、100年前の子年にスペイン風邪が蔓延したと書いてある。昨年新春雑感に一言でも書いていれば、今頃日本中から講演の依頼が殺到していたに違いない。過去に学ぶべきだと痛感し、今年も書く気になった。正に「歴史は繰り返す」である。そこで、スペイン風邪について、ネットで調べてみたので、パソコンやスマホをお持ちでない方のために、少し触れたいと思う。

このスペイン風邪は1918年3月からの第1波と1918年8月からの第2波、1919年1月からの第3波に分けられる。第1波は身体弱者の死亡が多かったが、2波、3波になると、壮健な者にも及ぶほど、強毒化した。一部では、死者が1億人に達した可能性も指摘されるなど、人類史上最悪の感染症の1つである。では、なぜ第2波の方が高い死亡率なのか。しかも、第2波の流行では、第1波で感染していない者が比較的重症になりやすく、第1波で既に感染している者が罹患した場合は軽症だとある。つまりワクチンを投与した方が良いという事か。なお第3波がある。殊に注意！

昨年は新型コロナウイルスが猛威を振るったが、今年はどうだろう。今年は「辛丑」(かのとうし)。辛という字は一と一を組み合わせたもので、下に入る干は陽エネルギーが厳然として上に出現する形で、昨年庚を次ぐ革新を意味する。その際殺傷を生じることがある。

憲法改正を公然と唱え、防衛大臣に河野太郎を据えたあたり、戦争の拡大が正当化されることが心配である。なお、辛という字は「上に立つ者は十字架を背負って辛い思いをする」とも読める。上に立つ者、つまり国家、企業、

学校、病院、家族、ありとあらゆる社会の上司、トップとなる人は十字架を背負って辛い思いをする年だと断言できる。

更に「辛」は人間でいえば上に向かって冒す意味があるから、今まで下に伏在していた活動エネルギーが色んな矛盾、抑圧を排除して上に発現するという文字であり、そこに矛盾、闘争、犠牲を含むため、「つらい」「からい」ということも出てくる。更に「辛」は殺傷の意を含むこともあり、前年の庚の年に更新、実行しなければ、殺傷を含む「からい目」「つらい目」に遭うぞという事だ。従って、今年は庚の昨年より、一段と深刻な道なのだ。昨年を受けて、自分の心を改めて自新、更新していかねばならない。そうしなければ、必ず下から突き上げられて血を流すことになる。尚、辛は刀の象形文字で、そこから殺傷するという言葉が生まれた。

一方「丑」という字は、又と一の合せ字で、右手を挙げて「さあ行くぞ」と大将が叫ぶ。事を始めんとする意味を表す。また、丑は「はじめ」と読み、丑は紐で結ぶ意もあるが、その力はまだ弱い。しかし、新しい局面に当たったトップが法則、原理、原則に基づき、企画、改革を立て実行しなければ、下からの厳しい突き上げがあるぞと心得る。辛いが一段と発展する年。

他人ばかり占っていた私は、昨年自分が0地連の真っ只中にいることに気付かなかった。新社長の次男に「親父はもう会社に来るな」と釘を刺された。49年間所属した大東ロータリークラブも退会した。阪大工業会の理事会も新型コロナの影響でアンケート方式に変わった。外出する機会がほぼ無くなった私は、自宅で歩く訓練を始めたのだが、結果的にこれが良かった。車いす生活の男が奇跡的に何も持たずに歩けるようになったのだ。

さて、今年書初めは「感動を与える」とした。つい5年前までは、自分でも惚れ惚れするような字を書いていたが、ここにきて急激に衰え散々たる文字だ。パソコンで印刷した手本と比べると、あまりにも違い過ぎる。そこで、できるだけ字数を減らすことにした。だから「感動を与える」にしたのだ。人に感動を与えなければ、他人の心は動かせない。そっぽを向いている人をこちらへ向か

せるには相当のエネルギーを要する。「金儲けをして死んだ人は1年後には忘れ去られてしまう。しかし文化（文学、美術、音楽、建築等）を遺して死んだ人は50年いや100年後の人々にも幸せを与える。私はそういう思想の基にボバリアというホテルを造りました」という記事を見たとき、衝撃で体が震えた。何はさておきボバリアホテルに行くに決め、家内と飛行機に乗った。スペインのグラナダから300キロ、道中いろいろあったが、着いてみると聞きしに勝る立派なホテルで感動した。広大な敷地にゴルフ場、テニスコート、プールがあり、鶏を放し飼いにしている。

ホテルを出てセビリアに向かった。そこで見たアルカサル回廊が気に入ったので、その後オペラパーク東側、駅前通りに取り入れた。西側出入口や屋根にもアルカサルの様式を取り入れた。

住道駅前を流れる寝屋川と恩地川との合流地点、昔は船着き場で賑わった。私がスペインにこだわるのは、スペインの街並み、風景が好きだという他に、昔、この住道地域には隠れキリシタンが多く、野崎まいりで有名な野崎観音はマリア観音といわれ、私の養父母もクリスチャン。また、住道駅北側の広場はスペイン、グラナダのアルハンブラ宮殿にある「ライオンの中庭」のライオン像

と「糸杉の散歩道」を模して造られている。その住道の駅前に建つオペラパークも当然スペイン風の方がしっくりくるからである。オペラパークの建設前に、マンションを2棟建てたが、こちらも勿論スペイン製のタイルをふんだんに使ったスペイン風の建物である。最近、放出にメゾンパティオとそっくりな建物があると聞き、デザイナーに確認したら、あるオーナーがメゾンパティオとそっくりなマンションを建てたいと要望されたとのこと。人より15年もデザインがリードしているというのは楽しい。三洋時代、他社が真似したがる製品を作れと言われたことを思い出す。これまで書いてきたことは全て私に感動したこと。それに従ったのである。感動が心を動かし、行動に移る。小林幸子の「おもいで酒」の作曲家、梅谷忠洋の奥さんで歌手の梅谷裕子の後援会会長を20年間務めているが、私の締め言葉は「感動をお持ち帰りください」である。感動こそが全ての原動力になり、更なる感動を生む。今年米寿を迎えるが、これからもあらゆることに感動を見出し、周囲に感動を与え続ける人でありたい。

（電気 昭和32年卒）

大阪大学工業会理事 大川 進一郎様が2020年11月1日にご逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。